

# ～ごみの排出区分が「4分類」から「5分類」に～ 10月から「粗大ごみ」の収集開始！！

平成19年4月から始まったごみの有料化により、現在、一般家庭から出される「粗大ごみ」は、解体や切断の処理をして、「燃やせるごみ」等の4分類に分別して排出・収集しています。近年その「粗大ごみ」の処理が難しいとの声が高齢者や多くの町民の皆さんから寄せられています。町では、12年ぶりに「粗大ごみ」の排出処理方法を変更するための町条例改正案が、去る9月25日の第3回町議会定例会で可決されました。

## ■ 粗大ごみの目安

- ・町指定の40リットルのごみ袋に入らないもの。
- ・一辺の最長が1メートル以上のもの。
- ・重量が20kg以上のもの。

新しい「粗大ごみ」の排出・収集制度は、町民の皆さんが慣れるまで、様々な不便や困難も予想されますが、円滑な制度の移行にご理解とご協力をお願いします。

## ■ 粗大ごみの収集日と注意点

戸別収集実施日：令和2年4月～10月の最終金曜日に月1回実施。

(ただし、令和元年の今年は、10月から11月までの間に、3回収集します。)

- ※1. 町指定の粗大ごみ処理券を貼り、玄関近くに出していただきます。
- ※2. 収集は事前の申込順とし、収集量が超過した時点で締め切ります。
- ※3. 当分の間は1世帯につき3点までとします。

## ■ 粗大ごみ処理券

- ・小型200円 ・中型500円 ・大型800円
- ・町内の町指定ごみ袋販売店で今年10月から販売。

## ■ ご協力を！

1. 排出基準(品目)など詳しくは、9月30日付の回覧をご覧ください。
2. 回覧の排出基準にないものは、「一辺の長さの最長」で小型、中型、大型を判断してください。

【問い合わせ先】 役場住民福祉課 電話：44-2113(直通)

## 令和元年10月1日から パスポートの申請・交付は「余市町役場」で！！

令和元年10月1日から、積丹町に住民登録されている方のパスポートの申請及び交付は、余市町役場で行えるようになります。(原則、余市町役場以外ではできません。)

※パスポートを必要とする時まで期間がないなどの特別な理由がある場合は、パスポートセンター等での申請・交付ができますので、下記にお問い合わせください。

- 申請の際には、申請書、写真、戸籍の証明書類と本人確認書類が必要となります。
- 申請前に書類を用意し、余市町役場で申請してください。

申請・交付場所：余市町役場 民生部町民福祉課戸籍住民グループ 電話：21-2120(直通)

受付時間・申請：午前8時45分～午後4時30分

(午後4時30分以降も受付できますが、翌日の申請取扱となる場合があります)

交付：午前8時45分～午後5時00分

(申請から交付まで2週間程度かかります)

【問い合わせ先】 役場住民福祉課 電話：44-2113(直通)

エレベーターでの救出  
方法を学ぶ

北後志消防組合積丹支署(俵谷支署長・署員18名)は、8月28日、町役場と国保診療所で、エレベーター事故救出訓練を実施しました。

本的な構造などを教わり、文化センターと国保診療所のエレベーターを使用して訓練を行いました。

毎年8月に行われるエレベーター点検に合わせ、三菱電機ビルテクノサービス株式会社の職員からエレベーターの基

礎的な構造などを教わり、文化センターと国保診療所のエレベーターを使用して訓練を行いました。

災害等での停電は突然発生します。どんな事故にも対応し、町民の皆さんが安心できるように、訓練に励んでいます。

技術向上のため消防団員も厳しい訓練！

積丹消防団(今井論団長、以下50名)は9月14日、余別小学校グラウンドで教育訓練を行いました。



▲水防工法訓練

参加した団員は、団長の訓辞と松井町長の激励を受けて、礼式や水防工法訓練、模擬火災訓練を行いました。

礼式訓練では、基本動作から部隊編成などを行い、水防工法訓練では、土のうの作成手順を団員一人ひとりが確認し、水防活動の基本となる土のうの積み方を学びました。

後半には、模擬火災訓練も行われ、各分団の消防車両で火災発生現場に到着するところから訓練を開始。団員は小型ポンプやホースの取扱い、

住民体験型イベント  
子どもたちが消防士の仕事を体験！

9月9日の「救急の日」に合わせ、今年も9月8日に、同支署前で住民体験型の「消防フェスティバル」を開催し、多くの人で賑わいました。

救急ブースでは救急に関するクイズ、放水体験では消防車から出る水の圧力を体験。ロープ渡りでは、安全帯とヘルメットを装備し、力いっぱいロープを掴み、渡りきる体験に挑戦しました。

そのほか、消火器体験、濃煙体験も行い、煙の怖さを体験しました。

また、「消防戦隊シャコレンジャー」も登場。火遊びを促す悪者「火遊びマン」が心肺停止状態になる場面では、シャコレンジャーと子どもたちが協力しながら、AEDと心肺蘇生法を実践し、火遊びマンを助け、心肺蘇生法などの応急手当について学びました。

今回の消防体験型イベントは、町民の消防活動への理解を深め、子どもたちが消防士の仕事や災害の怖さを学ぶ良いきっかけとなりました。

▲放水体験



今回の消防体験型イベントは、町民の消防活動への理解を深め、子どもたちが消防士の仕事や災害の怖さを学ぶ良いきっかけとなりました。



▲エレベーターの構造を学ぶ